



発行所

北海道自衛隊退職者
雇用協議会
千歳支部問い合わせ先は
第7師団
広報・渉外班
0123-23-5131
(内線2245)<http://www.mod.go.jp/gsdf/nae/7d/index.html>

第七師団、中部方面区に向け前進開始

師団は、七月九日(月)及び十日(火)、第十一普通科連隊を基幹とする給水支援隊及び第七後方支援連隊を基幹する入浴支援隊の2個部隊を雨が降りしきる小樽港から、当初福知山駐屯地を目標に前進させた。両部隊は一日も早く被災された方々に笑顔が戻るよう、中国・四国地方における活動を開始する。

前進開始にあたり師団長は「被災された方々の環境は様々であり、その時々状況に応じて対応が必要であり、常に被災された方々の目線に立って、思いやりをもつて対応してもらいたい。」との言葉を送った。両部隊は多くの部隊・隊員が見送る中、胸を張って、駐屯地を離れた。



乗船する車両 (小樽港)



乗船する派遣隊員 (小樽港)



下船の準備 (舞鶴港)

前進態勢を整える支援隊
(海上自衛隊舞鶴基地)行進命令の補足
(海上自衛隊舞鶴基地)行進を再興する支援隊
(海上自衛隊舞鶴基地)

燃料補給 (福知山駐屯地)

燃料補給を終え出発を待つ支援隊
(福知山駐屯地)

燃料補給 (善通寺駐屯地)



給水支援隊 活動開始



さががけ
先駆

発行所

北海道自衛隊退職者
雇用協議会
千歳支部

問い合わせ先は

第7師団
広報・渉外班
0123-23-5131
(内線2245)

<http://www.mod.go.jp/gsdf/rae/7d/index.html>

給水支援隊（隊長 十一普連六中長 高正三佐）は、七月十二日から、西予市及び宇和島市において活動を開始した。また、七月十三日、支援隊が活動する愛媛県西予市野村において、被災地域を視察した内閣総理大臣から激励を受けた。内閣総理大臣は、給水支援の現場を確認するとともに、支援に関わる隊員を激励した。給水支援隊は、引き続き高正中隊長を核心として、被災された方々の目線に立った活動を遂行し、一日も早い復旧に対する思いを新たに



給水活動（西予市野村）



日々のミーティング（給水支援隊）
（海上自衛隊舞鶴基地）



給水活動（宇和島市河内上公民館）



給水支援（宇和島市玉津地区）



特別

第3号

問い合わせ先は
第7師団
広報・渉外班
0123-23-5131
(内線2245)

<http://www.mod.go.jp/gsdf/rae/7d/index.html>

愛媛県西予市における給水任務終了

給水支援隊（隊長 高正三佐）は、平成三十年七月十五日（日）、愛媛県西予市内における給水活動を終了した。

本活動は、十二日（木）に開始し、この間、西予市野村町では、市役所職員と連携しつつ、水を受領に来られた方々に対して心を込めて対応するとともに、下宇和公民館において、隊員への待機場所をご提供頂いた地域の皆様のご高配に心よりの感謝の意を示した。

給水支援隊は、引き続き、被害の甚大な宇和島地区における活動を継続するとともに、新たに、愛媛県大洲市における給水活動に邁進する。



西予市職員と連携した給水活動（西予市野村支所）



地域の方と調整をする支援隊長



地域の方とのコミュニケーション
（宇和島市河内上公民館）



水タンク内の残量を点検する能登3曹
（西予市野村支所）

隊員、ご家族の皆様へ

拝啓、派遣隊員ご家族の皆様、関係自治体及び関係諸団体の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと存じあげます。反面、隊員不在間や隊員の健康状態等不安な日々をお過ごしのこととお察し申し上げます。

さて、今般の派遣に際しましては、遠く離れた、かつ、不慣れな地への急遽の派遣となりましたが、これもひとえに、一分一秒でも早く被災された方々の下に駆けつけ、そして一刻も早く活動するが故の我々の行動に対し、ご家族皆様の深いご理解と迅速に対応頂いた賜物と改めて感謝申し上げます。

我々が活動する愛媛県は、連日厳しい猛暑が続く、そして、土埃が舞う中、隊員達は、常に被災された方々の目線に立ち、与えられた任務を一日も早い復興を願い、黙々と遂行しております。ご家族の皆様におかれましては、どうぞご安心頂き、隊員の笑顔での帰宅をお待ち頂ければと存じます。

引き続きよろしくお願い申し上げます。

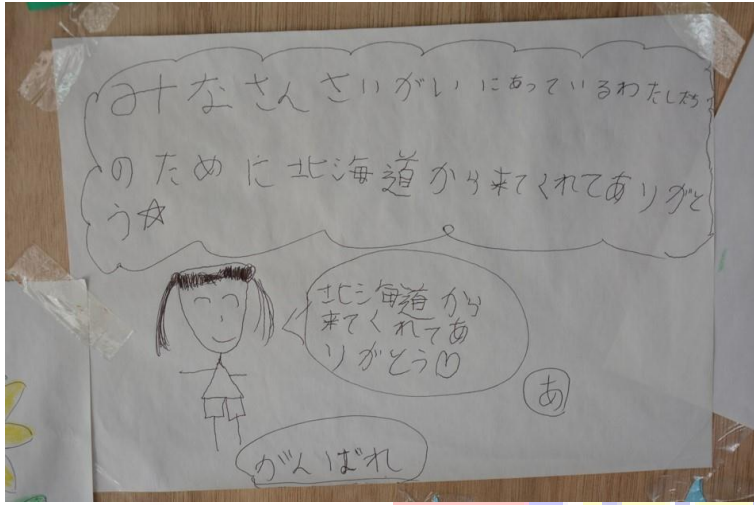
平成三十年七月

三等陸佐 高正 秀基

すべては“笑顔”のために！

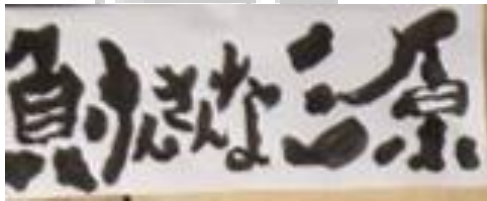
入浴支援隊（隊長 永浦二佐）は、平成三十年七月十二日（木）、広島県三原市に所在する北方コミュニティセンターにおいて入浴支援活動を開始した。

本支援隊は、十二日（木）の午後、現地に到着するや早速準備を開始して、この日の午後七時から入浴する地域の方々を迎え入れた。北海道からの移動直後で、かつ、慣れない土地と厳しい暑さの中での入浴所の開設にも関わらず、派遣隊員全員が、地域の方々の目線に立った活動のため、そして、隊長要望事項である「確実に実施せよ。」を具現するため、日々“すべては笑顔のために”を合言葉に、地域の方々の目線に立ち、そして、隊員達は、入浴を終えた地域の方々から、「気持ち良かった。」、「ありがとうございます」の言葉と多くのメッセージを頂き、勇気と元気をもらい、厳しい環境の中、任務に邁進している。



頂いた応援メッセージ *一部を抜粋

入浴支援隊は、引き続き、多くの被害にあったここ広島県において、一人でも多くの方に癒しの時間を味わって頂けるよう、すべては“笑顔”のために、任務に邁進する決意をもって活動を継続する。



日除けのすがきを取り付ける黒滝3曹



入念な浴槽の清掃

隊員ご家族の皆様へ

ご家族の皆様、関係自治体及び関係諸団体の皆様、連隊ごぶしの会、連隊後援会の皆様、我々入浴支援隊は、今般の豪雨において多大な被害を受けた、ここ広島県三原市において入浴施設を開設し、一人でも多くの方に笑顔が戻るよう、そして、一日でも早く街が復興するよう、地域の方々の目線に立ち、日々任務に邁進しております。これもひとえに、何時如何なる時でも、深いご理解のもとに隊員を任務に送り出し、その苦勞を心から分かちあって頂けるご家族の存在があつてこそ、とこの場をお借りして深く感謝申し上げます。反面、隊員不在間の様々な不安を抱えながら日々をお過ごしのこととお察し申し上げます。

さて、七月十日（火）、千歳を出発して早くも十日程が経ちました。その間、隊員は、連日の猛暑にも関わらず、“すべては笑顔のため”を忘れることなく、元気にそして笑顔で、一日でも早い復興を信じて勤務しております。ご家族の皆様、どうぞご安心ください。皆で必ず任務を完遂し、笑顔で帰隊致します。どうぞ、引き続き背中を押して頂きますようお願い申し上げます。

平成三十年七月

二等陸佐 永浦 大介





給水班で活動する福澤 1 士（入浴支援隊）

給水支援隊及び入浴支援隊の両部隊では、昨年の十月に部隊配置となった一等陸士九名を編成に組み込み、“若い力”の更なる成長と派遣活動の原動力として期待を募らせている。

今回派遣された隊員は、給水支援隊六名及び入浴支援隊三名で、当然ながら災害派遣自体が初めての経験であり、出発準備における個人の携行品や部隊携行品の準備等、先輩隊員のアドバイスや行動を見よう見まねで行い、給水活動地域である愛媛県西予市及び宇和島市に、入浴支援活動地域である広島県三原市にそれぞれ到着し、早速猛暑という洗礼を浴びながらも、部隊に与えられた任務の中における自分の役割を模索しつつ誠心誠意、時には地域の方々との談笑に満面の笑顔を見せながら、地域の方々と同じ目線に立ち、先輩達の背中を追い駆けながら、日々成長した姿を見せている。

今派遣を通じ、自衛官として一周りも二周りも成長した姿を期待して止まない。

原動力たる“若い力”の成長

特別

第4号

問い合わせ先は
第7師団
広報・渉外班
0123-23-5131
(内線2245)

<http://www.mod.go.jp/gsdf/rae/7d/index.html>



入浴支援隊 溝口 1 士



入浴支援隊 斉藤 1 士

私は、宮城県出身で、平成二十三年三月に発生した東日本大震災により被災し、数ヶ月間に亘り、ライフラインの停止を経験しました。特に水が出ないという不便さは身に染みています。今回自分は、入浴支援を実施する側として、自分が苦労した事を思い出し、広島県三原市本郷地区で被災された皆様に、真心を込めた入浴支援を実施するよう心掛けています。気温計が三十五度を越す猛暑の中、挫けそうになりながらも、毎日自分達が用意したお風呂を楽しむにきて来てくださる方々の事を思えば、自分でも驚く程頑張れます。また、笑顔で感謝された時は、疲れも吹き飛びます。

この様に自分を成長させて頂けることへの感謝を忘れず、被災地の一日も早い復興のため微力ですが、引き続き頑張りたいと思います。

派遣に懸ける思い

入浴支援隊

一等陸士 斉藤 英怜

派遣に懸ける思い

入浴支援隊

一等陸士 溝口 香凜

平成三十年西日本豪雨に伴い、私は入隊して二年目、初めての災害派遣に参加しています。

私たち、第七後方支援連隊は、被害の大きかった広島県三原市で入浴支援を行うことになり、初めての仕事で戸惑うこともありますが、入浴された方々から「ありがとう!」「暑いけど頑張ってるね!」と逆に声を掛けて頂いたり、日が経つにつれ毎日お風呂に入りに来てくださる方々とも顔見知りとなり、被災された方々の明るい笑顔や和やかな雰囲気は癒され、いつの間にか毎日笑顔あふれる小さなお風呂屋さんになっています。

今回の災害派遣では、自衛官という仕事に誇りを持つ大きなきっかけとなっています。これからも「真心溢れる支援」を忘れることなく、強く清く日々精進していきたいと思っています。

給水支援隊

一等陸士 中宿 洸平

私は、今回の派遣に関しまして、北海道から遠く離れ、かつ不慣れな土地への急遽な派遣となりましたが、普段から中隊長要望事項の一つである「即応態勢の確立」を意識しているので迅速な行動をとり、少しでも早く被災地に駆けつけることができました。

現地では、地域の方々に逆になを掛けられ、北海道から来ていることを話すと、暑さに慣れていないので熱中症の心配をしてくださる方や冷却スプレーを差し出して下さる方もいました。地域の方々のほうが辛い思いをしているのに、私たちの心配をして下さる優しい方々ばかりで、改めて人の温もりを感じています。今回の派遣で、改めて「即応態勢の確立」の重要性が分かりました。災害が発生したら一分一秒でも早く被災地へ駆けつけ、与えられた任務を遂行することが自衛官としての使命だと痛感しています。引き続き、一日でも早い復興に、少しでも貢献できるよう、与えられた任務を頑張ります。

給水支援隊

一等陸士 菊池 任時

私は、給水支援隊として愛媛県の西予市と大洲市で活動しています。

当初、私は水を求めて来られる方は、疲れている様子だと思っていました。逆に感謝の言葉を頂いたり応援される等により、元気を頂いています。

一日中、給水活動をしていると来られた方とお話しをする機会もあり、酷い所では一階の天井まで水が来て危なかったとのお話を伺いました。

また、お年寄りの方もたくさん来てくださり、水の入ったポリタンク等を車まで持つて行く、みなさんに「ありがとう」と言っていたいた時にはとてもやりがいを感じ、自分達の仕事の重要性を改めて感じています。

まだまだ給水支援は続きますが、一刻でも早く被災された方々に日頃の生活が戻り、地域が復興できるように、私自身微力ながらも貢献できるよう頑張ります。

第七後方支援連隊補給隊

第十一普通科連隊六中隊

第十一普通科連隊六中隊



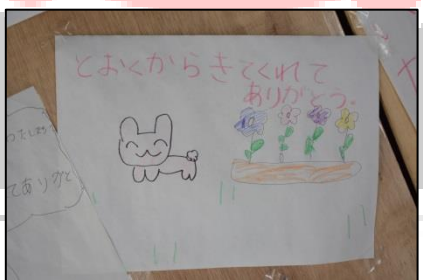
給水支援隊 中宿 1 士



給水支援隊 菊池 1 士



活動の軌跡





特別

第5号

問い合わせ先は

第7師団

広報・渉外班

0123-23-5131

(内線2245)

<http://www.mod.go.jp/gsdf/rae/7d/index.html>

一日も早い復興を願いつつ

拜啓、仲夏の折、先軀をご拝読の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、師団は、七月十二日より、愛媛県西予市、宇和島市及び広島県三原市の三市において活動して参りました給水支援隊及び入浴支援隊の両部隊が、災害派遣全般の態勢整理に基づき、その任務を交代部隊に託し、戦力回復に移行致しました。

本派遣間、両部隊長の率先垂範と適切な統率により、約千八百キロメートルにも及ぶ長距離機動、不慣れた土地、かつ、猛暑が続く中部方面区での活動を通じ、一件の事故もなく、その任務を交代部隊に託すことができました。

これらもひとえに、隊員不在間の留守をお守り頂きつつも、隊員の背中を後押し頂きましたご家族の支えがあったからこそと、改めて感謝申し上げます。反面、隊員の健康状態等を含め心労の絶えない日々が続いたこととお察しする次第であります。

師団は、戦力回復を行いつつ、再度の派遣に備え、準備を万全に行うとともに、中部方面区の方々が自らの力で再び歩み出す力の蓄積と、一日も早い復興を心よりご祈念申し上げます。

最後に、本派遣間、関係自治体首長及び関係自治体、自衛隊協力諸団体、部隊OB会等から頂戴した被災地に向けたお見送りや心温まる激励に対しまして、改めて心より感謝申し上げます。

平成三十年七月

第七師団長

陸将 小野塚 貴之



給水支援隊 高正 3 佐
(11 普連 6 中隊長)



入浴支援隊長 永浦 2 佐
(7 後支連補給隊長)